

## 答辞

春風が心地よく吹き抜ける中、新たな一步を踏み出す私たちの姿が、まるで自然と調和しているように感じられます。この季節の美しさと共に、新たな旅立ちへの期待と希望が胸を満たしています。

本日は私たちの特別な一日となる卒業式を催していただき、誠にありがとうございます。そして、忍耐強く、私たちの未来のために尽力してくださった先生方、家族に心から感謝申し上げます。

「挑戦」このスローガンのもと始まった我々の修猷館生活。

中学時代から続く新型コロナウイルス感染症の大きな影響により、不安が大きかった一年生。まず、私たちを出迎えてくれたのは熱い先輩方でした。応援歌指導。これ程熱く、先輩方からの気持ちを受け取ることのできる機会は他にありません。そこで私たちは、中学生と修猷生の違いを目の当たりにし、修猷文化が脈々と受け継がれてきていることを肌で感じました。また、行事を成功させるために奮闘する先輩方の姿に触れ、私たちは修猷生の熱情を理解していききました。

来年はついに自分たちが主役になる番だと気分も高まってきた二年生。大運動会に深く関わることができ「来年は私たちが最高の大運動会を作り上げてみせる。」と固く決心したことは今でも忘れることはできません。大文化祭では作品によって自らの努力、思いを表現する大切さを学びました。また、各々がやりたいことを存分に行い最上学年としての自覚が芽生えた瞬間でした。

そして、今日で終止符が打たれる三年生。部活動の最後の大会、大運動会の準備が始まりました。毎日が新しいことの連続で、まるで大海原へ旅立ったような気持ちでした。ここから大運動会が終わるまでは言葉では形容しがたいほどに濃密な時間でした。私たちにとって、この時間はかけがえのない宝物となっています。

これが私たちの青春でした。

私たちは卒業という大きな節目を迎えるとともに、時間の不可逆性に改めて気づかされました。大きな決断をした日。大切な仲間と笑いあった日。感動のあまり思わず涙した瞬間。これらの「時」というものは常に挑戦をする前後に存在しました。挑戦している最中は、どんなにそれを好きで、愛していたとしても苦しい時間だったように思います。挑戦は大きな決断をする強い心から始まり、一時的な苦しみを経て、爆発的な感動により完結し、私たち

に新たな可能性をもたらしてくれます。修猷の伝統は私たちに、挑戦の意味を考えさせ、それに対する覚悟を促しました。そして、その影響を受けて私たちは挑戦の意味を理解し、果敢に取り組んできました。これまで修猷館という学び舎が私たちに試練を与え強くしてくれていたのです。これから「過去」に戻ることはできないので再び応援歌指導が、大運動会が、大文化祭が行われることは当然ありません。

しかし、私たち修猷の伝統に育まれた者なら、挑戦の重要性を理解しています。これからも日々挑戦し続け真の「不羈独立」を完成させます。

挑戦することは自らの可能性を生み出すこと。そして、その可能性こそが、希望です。現代社会において戦争、環境問題などの世界規模の社会問題は多く存在していますが、全く改善されているように感じません。これは私たち人類にあまりにも希望が足りていないからではないでしょうか。むしろ人々は自己防衛に必死になり希望を捨ててはいないでしょうか。希望を失えば、人々は長期的な目標や理想に向かって努力することができなくなり、結果として持続可能な社会や世界の構築が妨げられる危険性があります。そのような事態はきっと誰も望んではないはずで

「世のため、人のため」

私たちはこの修猷館をそれぞれ旅立ち、挑戦を続けます。そして、世界に希望をもたらす。これこそが私たちの使命なのです。

我らが人生挑戦あるのみ

「吾等が使命を果たしてん」

以上、我々卒業生一同感謝の意を表し我々らしい誓いをたてて、答辞とさせていただきます。

令和六年 三月二日 卒業生代表 川添 天